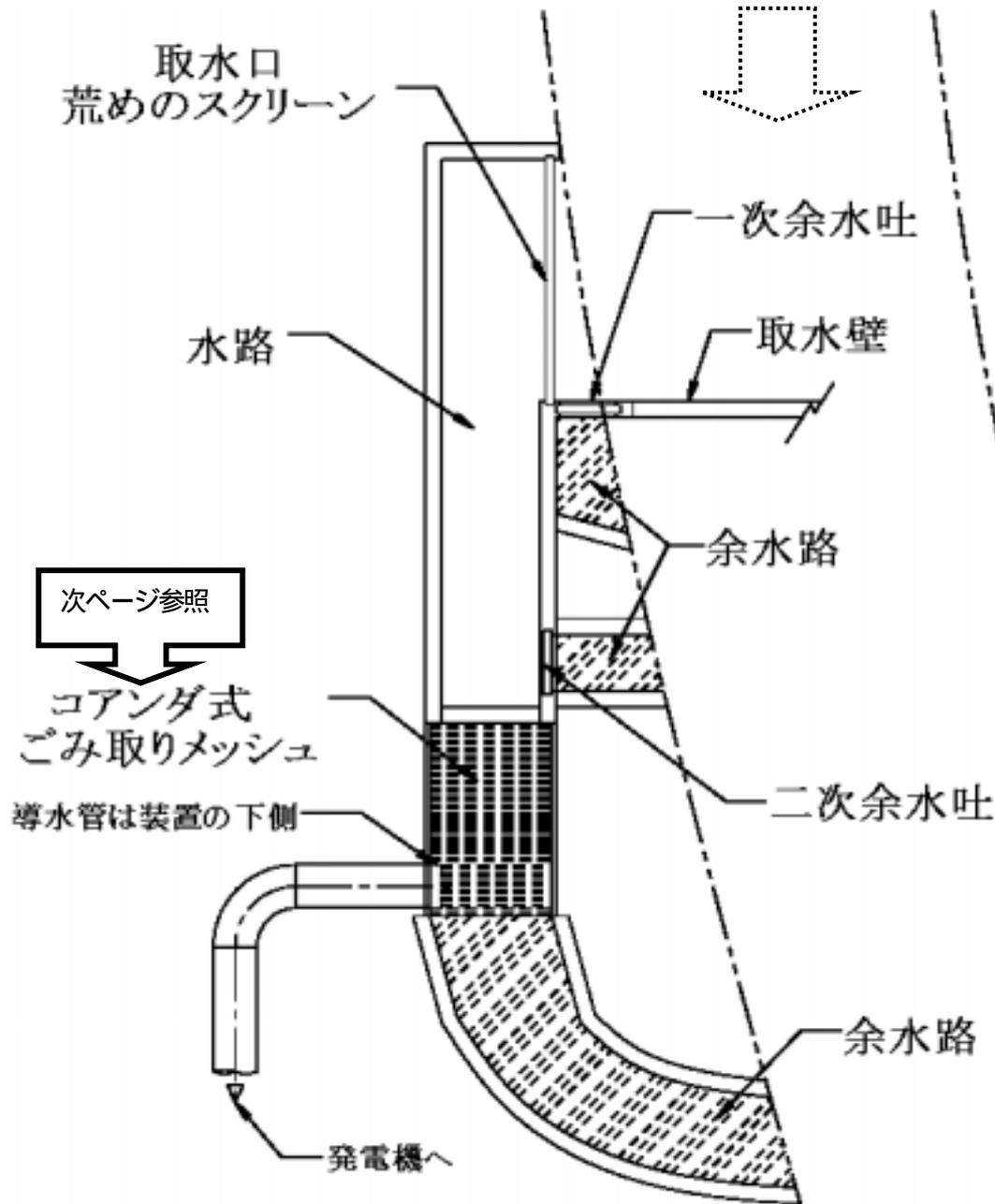


キャニオン 取水の典型的レイアウト

キャニオン社では、取水方法について問い合わせがあった場合、以下の例を回答し、場所ごとに自由にお考え下さいと薦めています。



注意: 取水口には制水門を設け、発電機点検時や保守時には、水を止め、水路、ごみ取り装置の保守点検も同時に行う事。

コアンダ効果について：

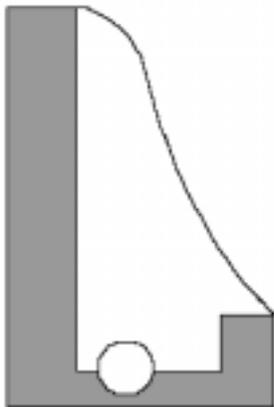
堰でオーバーフローさせ、ゴミと水を分離し、保守回数を劇的に減少可能な方法をキャニオンで提唱しています。オーバーフロー場所に少々の丸みを持たせると、コアンダ効果が発生しゴミがスクリーンの下に集まり、ゴミと水が不思議なほど分離します。

Wikipedia 辞典より

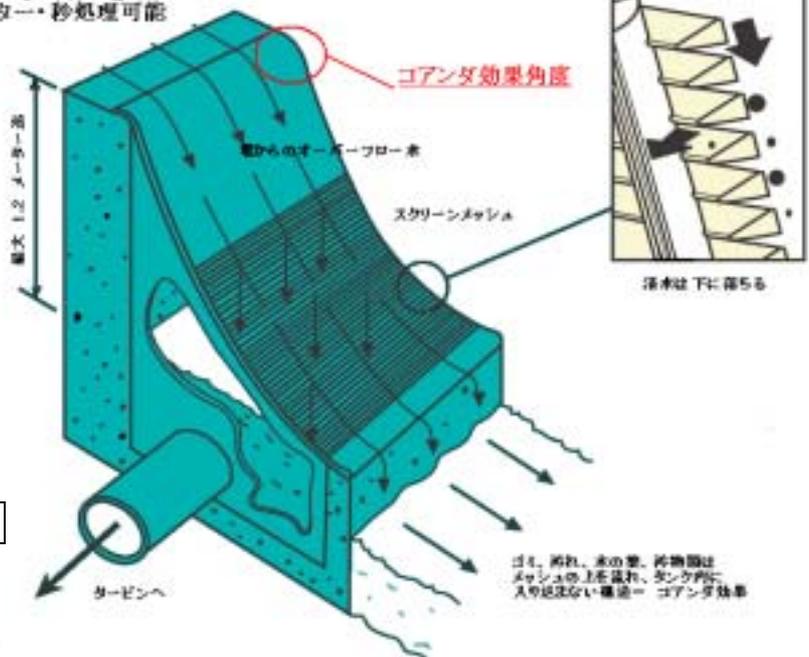
コアンダ効果 Coanda effect は、流れの中に物体を置いたときにその物体に沿って流れの向きが変わる流体の性質のこと。ルーマニアの発明家アンリ・コアンダ (Henri Coanda : 1886-1972) がジェット・エンジン機の実験のなかで発見したので、彼の名前にちなむ



水道水の下にスプーンを近づけると水は、垂直に落下せず、スプーン面に沿って、流れ、方向を変えます。この現象は、飛行機の翼の揚力と同じで、スプーンでは右に引っ張られる力を感じる事が出来ます。



堰幅1メートルにつき
140リッター・秒処理可能



堰の水が流れる箇所に滑らかな曲線を加えます。

